

誰もが住み慣れた地域で
最期までいきいきと
心豊かに暮らせる社会に向けて



本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。
誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

今から「ちょっとお願い！」と頼める友人。知人のつながりを作っていくことが重要になってきています。元気な高齢者も増えてきますので、高齢だからといって「支えられる側」だけではなく「支える側」にもなり「お互いさま」の関係を築いていくことが求められてきています。

昔は、自然にやっていた隣近所や親戚の助け合い。しかし、これからは一人暮らしの方や高齢世帯が増えてくる中で、「助け・助けられる」「支え・支えられる」人間関係づくりが大切な時代になり、元気な今から繋がっていくことが大切になってきます。

行政区などの隣組単位で、または、ご近所の皆さんで「地域の支え合い」を一緒に作っていくのを目指しています。

第5弾 新しいふれあい社会
これからの「助け合い」を
どう進めるか。

本町でも、少子高齢化が進みます。高齢者世帯や一人暮らしの方が増えていきます。誰もが「高齢になっても、障がいがあっても、安心して住み慣れた我が家で暮らしたい」と思っています。あなたは安心して暮らせますか。

足腰が弱くなっていくことで、元気な頃は気にせず歩いていたところにも行けなくなり、閉じこもりがちになってしまうかもしれません。

「買い物支援バス実証運行」

電話またはウェブで事前予約
●日に▲▲まできてください
1週間前から予約可能…っと

乗合ミニバスを家の前まで配車
●登録地点から予約システムが最適経路を導き出し最大8名の方と乗り合わせます。

帰りも同じミニバスで家まで送ります

事前に登録が必要です!
玄関から近い場所で停車できる位置を調べるので登録には時間がかかります。

メガステージ石川まで運行します
●ミニバスは同じ場所で停車しているので安心!
●発車時間前に戻れば役場等の施設へのお出かけも可能です。

●スケジュールを元に午前と午後の2便を運行します。
●1週間前から予約可能でミニバスの定員は8名です。

※ご自宅前までミニバスが入れないときは、ご自宅近くまで出てきていただく場合がございます。

町では、石川町交通不便地域解消プロジェクトとして、12月から「買い物支援ミニバスの実証運行」を始めています。今後は、新しい交通サービスの導入の可能性に向けて検討していくことになっています。交通不便地域ということで地域は石川地区以外の5地区に限られていますが、平日のみの利用で、各地区、週1回運行します。買い物支援のためメガステージのみの運行となっています。

利用される方には無料で使用できる利用証（ノルカ）が配布されますので、事前の登録が必要になります。利用対象者は、令和4年12月1日時点で満75歳以上の方となっていますが、付き添いのため一緒に同乗される方や移動に不便があると認められる方は、下記事務局までお問い合わせください。なお、12月14日現在で利用状況は下記のとおりです。

地区	申し込み数	実利用者数
沢田地区	9	3
山橋地区	6	5
中谷地区	8	2
母畑地区	13	5
野木沢地区	11	4
計	47	19

利用された方からは、「一人暮らしのため、普段は家族に買い物を頼んでいたが、自分で見て選ぶのは楽しい。週に一度の楽しみができました。」「ゆっくりと自分のペースで買い物ができるよかったです。」との声を聞くことができました。

※詳しい内容は、10月1日配布されたチラシが石川町ホームページをご覧ください。

【問合せ先】
石川町公共交通活性化協議会（事務局：石川町役場 企画商工課 企画係 電話 0247-26-9114）

「今、各地区の福祉部会ではこんな活動をしています。」

平成30年から地域自治協議会が立ち上がった地区では、福祉部会がご近所の見守りや声かけなど、地域の支え合いや見守りについて話し合い、支え合いの活動が始まっています。今回は、その活動についてご紹介します。

沢田

「向こう三軒両隣」困ったときはお互いさまの『助け合い』ができる地域をめざしましょう！

健康福祉部会の目標の一つです。このコロナ禍で、ミニデイも開催できず、人と人の絆も薄れがちになる中、地域のサロンがコロナ対策を行いながら、活動を再開しています。

「たくさんのお互い様」は住民同士のたくさんつながりや関係性があって存在するもの。お互い支え合いの輪を広げるきっかけづくりとして、健康福祉部会では十一月二十四日に



沢田地区で初めて開催された「出張オレンジカフェ」には多くの参加者が見られました。⇒

第一回地域サロン交流会を開催しました。地域のサロンの皆さんはもちろん、そのほか長寿会の方々や、傾聴ボランティアの方々、健康福祉部会員等が、ポッチ



(文化祭では長寿会の作品が多数展示)

競技を通し交流を深め、お互いの情報交換や久々の再開に終始笑顔で語らう姿を目にし、とてもうれいものを感じました。これをきっかけにピンポン体操に参加したいという方も増え、健康増進も含め今後は楽しく歌う会や囲碁教室など集いの場をどんどん情報発信し、地域のつながりを作りたいと考えています。

皆様からの提案や企画もお待ちしております。また、高齢者を支える『お達者さん』を募集し、ついでの買い物やゴミ出し、サロンの送迎など、約34項目のお手伝いに対し20名以上の方々に登録をいただき、本格的な活動を目指しています。長寿会からもお手伝いできるよというお声をいただいています。



地区サロンの様子

「住み慣れた地域でいきいきと心豊かに暮らすために」一緒に支え合い・助け合いの輪を広げてくださいませ。

沢田地区 水野



(11月に開かれた地域サロン交流会の様子)

中谷

中谷地区福祉部会では定期的に見守り訪問活動を行っています。コロナ禍により外出する機会が減り、人との交流が減ってしまった方も、福祉部会の訪問で笑顔になり、来てくれてうれしいと言われるそうです。また短時間の訪問の中で聞けることは少ないですが、少しずつ困りごとを話してくれるようにならなってきたとの報告もあり

ました。こうした福祉部会の活動も地域の方に根付き、安心・安全を届け、生活支援の方も活動出来るように検討していきたいと思っています。

中谷地区 吉田



9月に実施された福祉部会事業

『生き・活き・元気体操教室』を理学療法士の廣田先生を講師に招き、体力診断・自宅でもできる体操を行いました。



母畑

九月二十六日に第二回福祉部会を開催しました。主な内容は十二月から始まる買い物支援ミニバスの実証運行(石川町交通不便地域解消プロジェクト)について、役場企画商工課の担当者の方から説明を聞きました。実証運行をするにあたって、試運転の有無や定員8名以上の場合はどうするのか、同乗

者の料金の支払いなどについて質問が出されました。福祉部会と長寿会で連携して利用対象者に声かけや相談の対応をしていくことを確認しました。実証運行が終わっても継続可能な買い物支援になるとよいと思っていました。

母畑地区 永沼



説明会の様子

山橋

七月二十日に福祉部会を開催しました。地区ごとにグループ編成し、高齢者の情報共有及び困り事の解決方法について話し合いました。「近隣に集まれる場所がなく、送迎がないとサロン参加も難しい高齢者が増えているので何とかしてあげたい。」とのことで、今後、引き続き検討していくことになりました。

また、「介護認定を受けるまでの流れ」についての勉強会も行い、今後も講演会等の研修を企画していきたいとの声がありました。長寿会ではゲートボール大会・

クロリティー大会・スカットボール大会等で交流を深めています。が、次の世代の加入者も少ないため、高齢になってこそ、つながりを持って楽しめるようにしていきたいと長寿会への勧誘も行っていくことになりました。南山形サロンでは、健康体操・口腔ケアの大切さ・フレイル予防について学びました。

山橋地区 湯澤



野木沢

七月二十九日に今年度一回目の福祉部会を開催しました。

福祉部会では、今後、高齢者の人数が増え、益々、助け合いや地域のつながりが大事になってくるため将来に向けて、他人ごとではなく、自分のこととして、それぞ

れが考えなくてはならない時代にきているので、「何で支え合いが必要になるのか」を再確認しました。また、野木沢福祉部会の経過や今年度の活動計画について全体で共有しました。さらに、九月二十二日に二回目の福祉部会並びに総務地域づくり部会合同会議を開催し、十二月から始まっている交通不便地域における移動手段の確保に向けた買い物支援ミニバスの実証運行について企画係より説明を聞きました。4ヶ月の期間終了後、統計を取り、その後をどうするのか。自治協議会が活動できるよう持続可能なやり方をしなければ…との意見が挙げられました。コロナの状況によって変わりますが、コロナももう3年になるので勉強会や先進地視察についても検討していきたいと説明がありました。

野木沢 地区 塩田



防火訓練の様子